

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 〒153-8518

住 所 東京都目黒区東山3-8-1

氏 名 東急バス株式会社

取締役社長 古川 卓

印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	東急バス株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市高津区溝口5-14-1		
該当する事業者 の要件	<input type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	H	運輸業, 郵便業
	中分類	43	道路旅客運送業
主たる事業 の内容	一般乗合旅客自動車運送事業		
事業者の規模	<input type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量		kl
	<input checked="" type="checkbox"/> 自動車の台数	233	台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	2019 年度 ~ 2021 年度 (報告年度 2021 年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

2 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況 (第3号該当者等)

(1) 計画期間における温室効果ガスの排出の量等の状況

ア 温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
	(2018年度)	(2019年度)	(2020年度)	(2021年度)	
排出量 (t-CO ₂)	(実) 9,449 (調) 9,449	(実) 9,266 (調) 9,266	(実) 8,734 (調) 8,734	(実) 8,588 (調) 8,588	(実) 9,397 (調) 9,397
削減率		(実) 1.9% (調) 1.9%	(実) 7.6% (調) 7.6%	(実) 9.1% (調) 9.1%	(実) 0.6% (調) 0.6%

イ 温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値 (任意記載)

原単位の活動量	原単位等の単位				
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標とした値
	(2018年度)	(2019年度)	(2020年度)	(2021年度)	
排出量原単位等の値					
活動量の値		0			-
排出量原単位等の削減率		%	%	%	%

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況等についての説明

第1年度	効率的な運行計画の策定により、昨年度と比較して走行距離、軽油の使用量を減少させると共に、2019年度新車について、低燃費車18台（ハイブリッド車1台含む）購入することで温室効果ガスの減少を図ることができた。
第2年度	効率的な運行計画の策定（夜間のタイヤ等見直し）により、昨年度と比較して走行距離、軽油の使用量を減少させると共に、2020年度低燃費車8台を他地域より移籍することで温室効果ガスの減少を図ることができた。
第3年度	効率的な運行計画の策定（夜間のタイヤ等見直し）により、昨年度と比較して走行距離、軽油の使用量を減少させることで温室効果ガスの減少を図ることができた。
計画期間における排出量増減等の評価 (第3年度の報告時に記載)	コロナ禍に伴う運休やタイヤの見直しといった想定外の要因で走行距離や軽油使用量が減少したこともあり、従前の取り組みの効果と合わせて目標排出量を下回ることとなった。
上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)	経済活動の再活性化に伴う便数復旧等による軽油使用量の変動の可能性も注視しつつ、継続してエコドライブを主とした取り組みを進めていく。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況 (全社目標) (任意記載)

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況

(1) 措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない装置を実施した場合は、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

<p>計 画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・エコドライブの取り組み実施 アイドリングストップの励行や急な加減速の抑制など日頃からの取り組みに加えて、エコドライブ強化運動を毎年度設定。運転指導や添乗調査など全社的な取り組みを展開し、環境に配慮した運転をより一層推進する。 ・低燃費車の導入 今後新たに導入する車両については、低燃費車(燃費基準達成車)とする。
<p>第1年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・エコドライブ運動強化月間を11月に開催及び本社員による添乗指導の実施を図った。 ・2019年度は低燃費車18台(ハイブリッド車1台含む)を購入し温室効果ガス減少の推進を図った。 ・AIを活用した車内事故防止システムの導入により静かな発進、停止を行うことで、排出ガス抑制の推進を図った。(追加)
<p>第2年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・エコドライブ運動強化月間を11月に開催し低燃費走行の実施を図った。 ・AIを活用した車内事故防止システムの活用にて運転者に対して、乗客が車内を移動中発進しようとするセンサーで運転者へ知らせ、静かな発進を行うことで、排出ガス抑制の推進を図ると共にデータ化することでエコ運転、車内事故防止に役立てている。(追加)
<p>第3年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・エコドライブ運動強化月間を11月に開催し低燃費走行の実施を図った。 ・新しいデジタルタコグラフを全車両に搭載実施。管理者が走行中の現在地、走行状態を確認することでエコ運転、車内事故防止に役立てている。(追加)
<p>計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)</p>	<p>計画期間におけるすべての年度においてエコドライブ運動強化月間を開催し、低燃費走行の実施につなげるとともに、低燃費車の継続導入をはじめ、新たなシステム等の導入等もあり、目標達成に寄与することができた。</p>

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 前年度における再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(追加検討を実施した場合は「○」、追加の検討を実施していない場合は「×」を記載してください。また、追加検討を実施した場合はその結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	追加検討の有無	検討結果
太陽光	×	
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	×	
その他 ()		
その他 ()		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度

(3) 前年度に実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入状況

(追加導入がある場合は「○」、追加導入がない場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	追加導入の有無	設備等の種類	追加導入の有無
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム (FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他 ()	
EV、PHV、FCV	×	その他 ()	

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	なし
第1年度	なし
第2年度	なし
第3年度	なし

5 その他、地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	なし
第1年度	なし
第2年度	なし
第3年度	なし

7 基準年度からの温室効果ガスの排出の量等の推移（3号該当者等）

(1) 自動車に係る温室効果ガスの排出量等

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
温室効果ガス排出量	9,449 t-CO ₂	9,266 t-CO ₂	8,734 t-CO ₂	8,588 t-CO ₂
車両の台数	220 台	216 台	226 台	233 台

(2) 車両の内訳

ア 車両の種別

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
普通貨物自動車	台	台	台	台
小型貨物自動車	15 台	15 台	16 台	15 台
大型バス	204 台	201 台	210 台	218 台
マイクロバス	1 台	台	台	台
乗用自動車	台	台	台	台
特種自動車	台	台	台	台

イ 燃料の種別

		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	最新年度 の比率
		台数	台数	台数	台数	
次世代自動車	電気自動車	台	台	台	台	- %
	プラグインハイブリッド自動車	台	台	台	台	- %
	ハイブリッド自動車	4 台	5 台	5 台	5 台	2.1 %
	燃料電池自動車	台	台	台	台	- %
	天然ガス自動車	台	台	台	台	- %
	その他	台	台	台	台	- %
低燃費車	ガソリン自動車 (上記を除く)	7 台	7 台	7 台	6 台	2.6 %
	ディーゼル自動車 (上記を除く)	126 台	139 台	148 台	148 台	63.5 %
	LPGガス車	台	台	台	台	- %
	その他(上記を除く)	台	台	台	台	- %
上記以外		83 台	65 台	66 台	74 台	31.8 %

※ 低燃費車とは、「エネルギーの使用の合理化に関する法律」に基づき定められた燃費基準（トップランナー基準）を早期達成している自動車をいう。